

展開場所 平成28年11月15日(火) 図工室

千葉県立若松小学校

指導者 宮野 真実

## 1 題材名 かたまりから大へんしん ～切ってかき出し〇〇して～

### 2 題材について

粘土は、子どもたちにとって身近な遊びの道具であり、幼いころから親しんできた素材である。手で自由に変形させて、動物や食べ物、建物や乗り物などをつくったことがある子どもは多いだろう。手でさわった感触を楽しみ、思いついたものを自由につくり、できた形を友達と鑑賞しあいながら進めることのできる素材である。粘土のもつ可塑性は、子どもの発想力や想像力が途切れることなく、楽しく活動していく特性があることから、本題材を設定した。

本題材は、「粘土を切ったり削ったりしてできた形を組み合わせながら、つくりたい形を思い描き、立体に表すこと。」「学んだ技法を組み合わせ、試しながら目標に向かって粘り強く取り組む子どもを育てること。」を目標としている。これは、学習指導要領の目標(1)「進んで表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。」(2)「材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫し、創造的な能力を伸ばすようにする。」にあたる。また、この目標を受け、内容Aの(2)ウ「表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表し方を考えて表すこと。」となっている。

本学級の子どもたちは、男子16名、女子14名の活発なクラスである。新しい題材に対して進んで取り組んだり、物をつくり出したりすることを楽しむことのできる子どもが多い。粘土遊びをしていると、大きな龍や象をつくり自作の物語を話し出す子どももいれば、「〇〇のように見えるね。」「〇〇に似ているね。」など見えた形から感じたこと、思ったことを想像し、それら伝えにくる子どももいる。一方で、レリーフのように平面的につくったり、既成のキャラクターに似せた小さな人形をつくったりする子どももいる。

本題材では、粘土の量感を十分に感じながら、用具を使って大きく形を切り取ったり、かたまりで形を起こしたりして活動できるようにしていく。大胆に形を変化させながら活動する今までにない体験を通して、想像もしなかった形に出会ったり、活動の面白さに気付いたりして、つくりながら発想を広げ、さらに活動を深めていく楽しさを味わわせたいと考えた。

また、学習中は友達とできた形を鑑賞する時間を大切にして進めていきたい。かきべらや切り糸を使って生み出される形を友達と見合う中で、新たな想像をかきたてられ、更なる創作意欲につながり、進んで活動することができる。進んで活動できない子どもには、切り口や削りあとの形を提示したり、友達のつくった形を紹介したりして関わり合いながら技能を身に付けていくことで楽しく取り組ませたい。

なお、題材名のサブタイトルの最後にある「〇〇して」は、子どもたちがこれから見つけるであろう、様々な手法が入ることを意味してつけた。

### 3 題材の目標

- 粘土を切ったり、かき出したりした形を組み合わせることを楽しむ。 (関心・意欲・態度)
- 切り口の形や組み合わせてできた形を基に表したい形を思い付く。 (発想や構想の能力)
- 切り方や、かき出し方を試しながら、表し方を工夫する。 (創造的な技能)
- 表し方のよさや面白さをとらえ、感じ取る。 (鑑賞の能力)

### 4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想・想像の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
粘土を切ったり、かき出したりした形を組み合わせることを楽しもうとしている。	切り口の形や組み合わせてできた形を基に、表したい形を思い付いている。	切り方や、かき出し方を試しながら、表し方を工夫している。	表し方のよさや面白さをとらえ、感じ取っている。

### 5 指導計画 (4時間扱い)

時間	子どもの活動	教師の支援・指導
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書や演示から、用具を使って粘土の形を変えることに興味をもつ。</li> <li>○粘土を使い基本的な用具の扱い方を試し、理解する。</li> <li>○友達と切り出したり、削ったりした形を見せ合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用具 (かきべら4種と切り糸) の基本的な扱いについて演示しながら活動に興味をもてるようにする。</li> <li>・用具の扱い方の違いでできる切り口や削りあとの形の違いについて写真やイラストで視覚的にイメージできるようにする。</li> <li>・子どもたちの見つけた、手法を紹介し合う場をつくる。</li> </ul>
2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のイメージを広げながら粘土をいろいろな形で切り出したり、削ったりする。</li> <li>○既習の技術を生かして切り取ったり、かき出したり、粘土を組み合わせたりして、気に入った形にしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切り取ったり、かき出したりした粘土も合わせて使うように提案する。</li> <li>・子どもの工夫を称賛し、いろいろな手法を意欲的に試せるようにする。</li> <li>・戸惑っている子どもには、前時で使った切り口や削りあとの形の違いがわかる写真やイラストを使い、視覚的にイメージできるようにする。</li> <li>・切り糸やかきべらに粘土がついたまま使うと、切り口がシャープにならないことを伝える。</li> </ul>
3		
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と作品を見せ合い、形のよさや面白さ、用具の使い方について話し合う。</li> <li>○自分の作品を見たり、友達の話を聞いたりして、お気に入りの方向から撮影する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形の面白さ、用具の使い方、工夫など話し合いの視点を知らせる。</li> <li>・感想カードと付箋紙 (友達からの感想) を用意し互いの意見や感想を交流しやすくする。</li> </ul>

## 6 研究の視点

道具の使い方を試したり、友達の手法から学んだりすることで、自分の気に入った形を見つけ、イメージを広げながら表現していくことができるだろう。

### 視点1：一人一人がイメージを膨らませ、楽しみながら活動するための手立て

○道具の種類によってできる断面や削りあとの違いを理解する。

初めて使う道具でできる断面や削りあとを子どもたちは想像ができない。油粘土でへらを使った経験があっても、どんな形ができていたのか意識をしていない子も多い。そこで、切り方や削り方でどんな形ができるのか自由に試す時間を取る。切り口や削りあとの形の違いを味わう時間を十分にとることによって道具の使い方を理解し、作品に活かしていくことができるだろうと考える。

また、試した形はその時間に崩してしまうので、写真に撮っていつでも振り返って見ることができるようにしておく。

○友達の手法を鑑賞する時間をとる。

削り取った後、面白いと思った形を鑑賞し合う時間を取る。かきべらや切り糸を使って生み出される形を友達と見合う中で、新たな想像をかきたてられ、更なる創作意欲につながり、進んで活動することができる。進んで活動できない子どもには、切り口や削りあとの形を提示したり、友達のつくった形を紹介したりして取り組ませていく。

### 視点2：創意工夫しながら自分の思いを自由に表現していくための手立て

○道具や材料を充実させる。

かきべら4種類と切り糸1種を1人に1つずつ用意する。個々に保持することのできる道具を使って造形活動を進めることで、粘土と向かい合い、そこから生み出される形に興味をもちながら、創作意欲が途切れずに活動することができるだろう。

粘土は切り口や、削った形がシャープに出る土粘土を使う。切り出したり削り出したりした形がより際立つ粘土を使うことで、自分の思いどおりの形を作り出すことができる。と考える。

○掲示物による技法の視覚化（掲示コーナー）

道具を使ってできた切り口や削りあとが視覚的に確認できるように、実物や写真などに保存し展示しておく。常に目に入るようにしておくことにより、作り方が分からず手が止まってしまう子どもにとって創作へのヒントになるだろう。

○技法をためすことのできる場の設定（おためし粘土コーナー）

粘土を自由に切ったり、削ったりすることのできる場をつくり、自由に技法をためすことができるようにする。削りあとや切り口がどうなるのかイメージできないときや、つくりたい形がどのようにしたら形になるのか分からなくなったときにその場を活用する。試行錯誤できる場があると、創作意欲をもって活動できる子どもも多くなると考える。

## 7 本時の指導

### (1) 目標

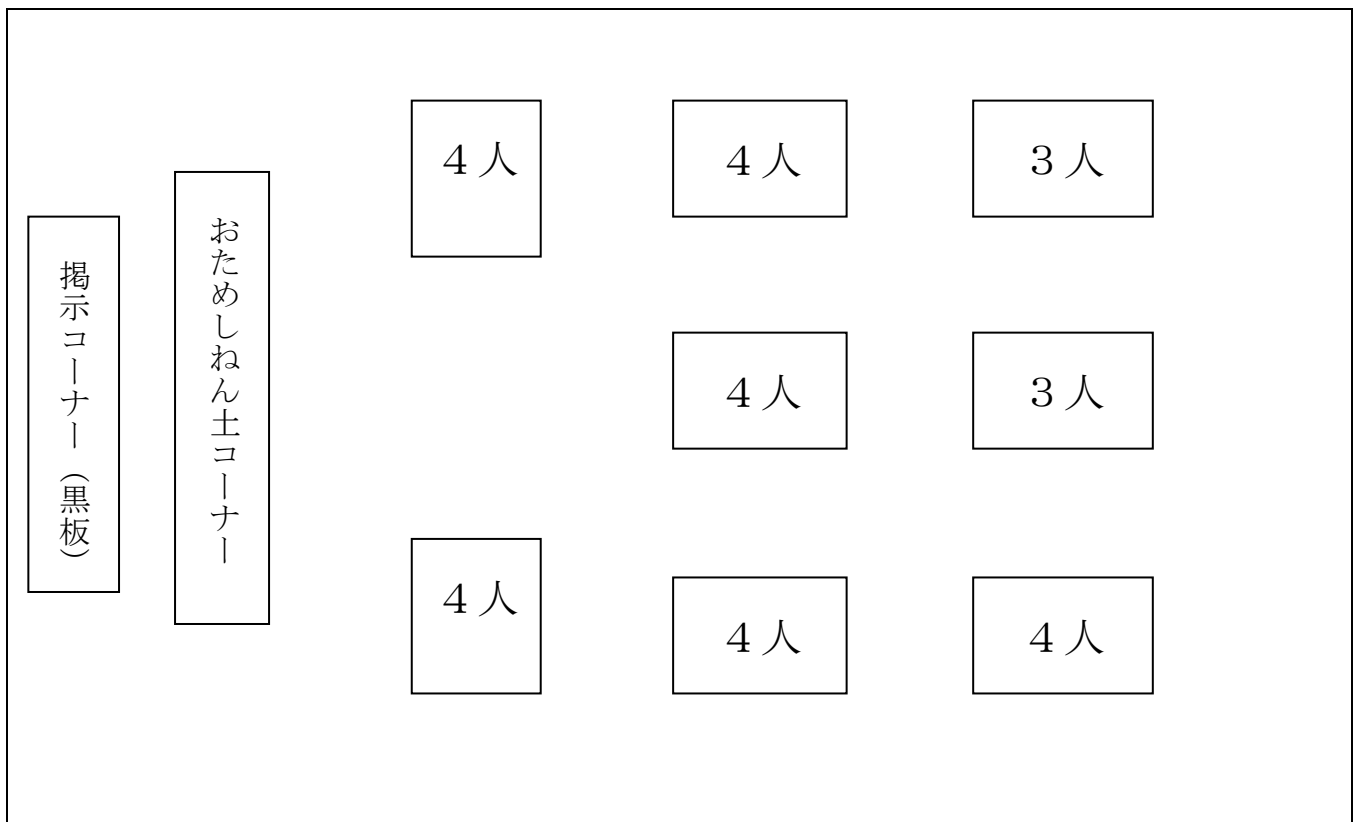
○既習の技術を生かして切り方や、かき出し方を試しながら、表し方を工夫している。(創造的な技能)

### (2) 展開 (2/4)

学習活動と内容	教師の支援 (○) と評価の観点 (◆)	材料・資料
<p>1 前時の活動を振り返り、本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○前時の活動の様子を振り返り、切ったりかき出したりする形から、想像したことや感じたこと、表現してみたいイメージを確認することで、活動の意欲を高める。</p>	<p>前時の活動の様子がわかる写真</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・切り糸で切った切断面</li> <li>・かきべらでかき出した形</li> </ul>
<p>かたまりを大へんしん。技を使って、ねん土名人になろう。</p>		
<p>2 道具や手を使い粘土の形を変えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・切り糸で切ったりかきべらでかき出したりすることを試しながら形をどんどん変えていく。</li> <li>・変化した形からイメージを広げ、切り取ったりかき出したりした粘土も組み合わせて更に形を変えていく。</li> </ul>	<p>○切り方やかき出し方で出来た形に注目させ、それを生かしながら作品を作っていくように声をかける。</p> <p>○切り取ったり、かき出したりした粘土も組み合わせて使うよう声をかける。</p> <p>○子どもの工夫を称賛し、いろいろな手法を意欲的に試せるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戸惑っている子どもには、前時で使った切り口や削りあとの形の違いのわかる写真やイラストを使い、視覚的にイメージできるようにする。</li> <li>・切り糸やかきべらに粘土がついたまま使うと、切り口がシャープにならないことを伝える。</li> </ul> <p>◆既習の技術を生かして切り方や、かき出し方を試しながら、表し方を工夫している。(創造的な技能)</p>	<p><b>材料</b> 土粘土</p> <p><b>道具</b> かきべら 4種と切り糸を一人に1セット</p> <p>粘土版 霧吹き</p>
		
		

<p>3 友達の作品を見合い交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>できた形を友達と見せ合い、用具の使い方と表し方のよさや面白さについて話し合う。</li> </ul> <p>4 活動を振り返り、次時の活動の確認をする。</p>	<p>○友達の作品のよいところ・面白いところ・形の工夫を探し合い、紹介する。同じ切り糸やかきべらを使ってもできる形が違うことの良さを感じさせる。</p> <p>○友達の工夫を見て、自分の作品に取り入れてもよいことを伝える。次時の活動も道具や手を使い粘土の形を変えていくことを伝える。</p> <p>○霧吹きで水をかけて濡れタオルで巻き、袋に入れて乾燥を防ぐことを知らせる。</p>	<p>作品の保存用ポリ袋</p>
---	--	------------------

8 場の設定



# かんしょうカード

3年 組 名前 \_\_\_\_\_

☆☆☆ わたしの・ぼくの作品の見どころ ☆☆☆

作品名

見どころ

☆☆☆ 友だちから ☆☆☆